

【資料1】

令和6年度 児童アンケート集計結果

4:そうおも
3:だいたいそうおも
2:あまりそうおもわない
1:そうおもわない

評価項目	全学年の児童の評価割合					
	4	3	2	1	平均点	昨年度
くらしのこと						
1 元気に登校して学校生活を楽しく過ごしている。	64.8%	29.9%	3.5%	1.9%	3.6	3.4
2 自分から進んであいさつや返事をしている。	46.0%	44.4%	8.5%	1.1%	3.4	3.1
3 先生から話しかけられたら、言葉でしっかりと答えている。	44.2%	46.9%	6.7%	2.2%	3.3	3.3
4 廊下や階段を走らず右側を静かに歩いている。	25.7%	48.5%	20.3%	5.5%	3.0	2.7
5 優しい言葉を使ったり、「さん」を付けて名前を呼んだりしている。	29.1%	35.2%	25.7%	10.0%	2.8	2.5
6 友達に優しく、仲良くすることができる。	62.4%	32.6%	3.5%	1.5%	3.6	3.5
7 給食ではしっかりと感謝し、正しいマナーで食事をしている。	60.9%	33.0%	4.6%	1.5%	3.5	3.4
8 2分前着席をしっかりと守っている。	37.8%	45.8%	14.3%	2.1%	3.2	3.1
9 けがをせず、ルールを守りながら外に出て遊んでいる。	59.6%	28.5%	7.6%	4.4%	3.4	3.1
10 「もくもくそうじ」ができています。	47.4%	40.7%	10.1%	1.9%	3.3	2.9
11 日直や給食当番などの仕事をしっかりとやり遂げている。	74.0%	23.0%	1.6%	1.4%	3.7	3.7
12 自分のことは人に頼らず自分でできるし、自分で決めたことは最後までやり遂げる。	38.2%	51.7%	8.6%	1.5%	3.3	3.1
13 よいと思うことは進んでやり、してはいけないことを我慢することができる。	39.8%	48.8%	10.0%	1.5%	3.3	3.2
学習のこと						
14 先生や友達の話最後までしっかりと聞いている。	51.9%	42.5%	4.6%	1.0%	3.5	3.4
15 授業中や話合いの時、自分の考えを進んで発表している。	39.7%	33.3%	21.1%	5.8%	3.1	2.7
16 みんなや学級のために意見を言ったりわからないことがあったら質問したりしている。	32.8%	37.1%	24.1%	6.0%	3.0	2.8
その他						
17 タブレットをルールを守りながら大切に扱い、学習のために使っている。	73.3%	21.1%	4.1%	0.6%	3.7	3.6
18 先生の授業はわかりやすい。	66.8%	28.6%	3.4%	1.2%	3.6	3.6
19 家庭学習(宿題)をきちんとしている。	73.9%	19.5%	4.9%	1.7%	3.7	3.6
20 先生は話(考えやなやみなど)をよく聞いてくれる。	64.9%	27.0%	6.1%	2.0%	3.6	3.6
21 先生は、よいことをしたり努力したりしたことをみとめ、ほめてくれる。	65.0%	26.9%	6.5%	1.6%	3.6	3.5

考察

【くらしのことについて】

・全ての項目で昨年度を上回る、もしくは現状維持の結果となった。挨拶・廊下歩行・清掃活動については、今年度重点的に指導を続けてきた。いずれも一定の成果を生み出していることが伺えるが、依然として伸びしろがあると考えられる。特に、廊下歩行に関しては、3. OPと全項目の中でも比較的低い平均値となっている。3学期に入り、これまで以上に重点指導事項として、担任はもとより全職員による指導を徹底するため、声掛けの内容や指導の視点を統一し、残り2か月、総仕上げとして、全校を挙げて指導をしていく。

・「優しい言葉を使ったり『さん』を付けて名前を呼んだりしている」については昨年度比0. 3P上昇の2. 8Pとなった。支持的風土の醸成が全校児童に浸透してきていることが伺える。しかし、「友達に優しく、仲良くすることができる」については3. 6Pと比較的高い結果となっており、双方の差が大きくなっている。このことから、仲良くはできているものの優しい言葉遣いはできていない、つまり多少乱暴な言葉も馴れ合いになってしまっていることが考えられる。道徳科や学級活動の時間を使いながら「相手のことを大切にす言葉」、「互いに認め合う雰囲気づくり」について考えさせ、優しい言葉遣いに対する子供たちの意識を高めていく。

【学習のことについて】

・一昨年度より「聞くこと」について、心構えや環境を整えることについて、全校で重点的に指導をしている。3年連続で比較的高い結果を残すことができています。

・「自分の考えを進んで発表」「みんなのために意見を言う」項目については、それぞれ昨年度より0. 4P、0. 2P上昇となった。対話的な学びに向けた指導を中心に授業改善を図ってきた成果が表れているが、全校の3割程度の児童が否定的なふり返りを行っている。今後も校内研究や学力向上部での協議を活性化させ、全職員が当事者意識をもって普段の授業改善に取り組んでいく。

【先生や自分のことについて】

・比較的高い水準で、昨年度と同等、もしくはポイント上昇となっている。このうち、18、20、21については、「学校が楽しい」の評価と大きく関連がある項目なので、少しでも「3」・「4」の児童評価の割合が増加するよう、児童に寄り添いながらも、是々非々の指導を実践していくよう更なる改善に努めていく。また、教師が子供たちと余裕をもって向き合えるよう、働き方の見直しも引き続き行っていく。